

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200164		
法人名	有限会社 大翔		
事業所名	グループホーム日和		
所在地	愛知県豊田市大坪町日向23番地		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376200164-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376200164-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成29年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>所在が代わっても生まれ育った環境に近い生活場所なので馴染みやすく安心して生活ができる。いつでも戸外に自由に散歩して自然を満喫していただいている。食事は旬の野菜を取り入れ自作のものを使用し、健康づくりに努めている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>民家を改装して開設されたホームでもあるため、利用者にとっては住み慣れた環境に近いことで、入居による生活環境の変化を小さくすることができる。食事についても家庭的な食事であり、職員とテーブルを囲んで楽しく食事を行っている。ホーム近隣の地域はのどかな山間地区でもあるため日常的に外出しており、毎週ホーム近くに来る移動販売の際には、利用者とは出かけて買い物を楽しむ取り組みが行われている。運営推進会議については、様々なテーマでの話し合いや行事の取り組みが行われている。会議を通じて、地域包括支援センターとの連携につながったり、出席者にホームへの理解を深めてもらう機会にもつながっている。また、日常的に職員間で意見交換を行いながら、利用者に関する気付き等を検討しており、一人ひとりの意向に合わせた支援につなげる取り組みが行われている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支えあい、受け止めあい」を理念とし、一方通行の関係にならないよう従事している。	利用者と職員が支え合うことを掲げた内容の理念であり、リビングへの掲示が行われている。ホームはアットホームな雰囲気をつくりながら、利用者と職員が和気あいあいとした関係を持つように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域性もあり、今までの家の延長として、地域の方々と機会を作り交流させていただいている。	代表者が生まれ育った地域でもあるため、近隣の方とは馴染みの関係でもある。地域のお宮の清掃活動に参加したり、老人クラブとの交流も行われている。また、ホームで演奏会の機会をつくっており、交流につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の交流を通し利用者様とのコミュニケーションの場を図り理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では報告中心気味で要望や苦情等言いつらいことも発言できるよう環境づくりに努めている。	会議の際には様々な活動を行われており、出席者との交流を行いながら、ホームへの理解を深めてもらっている。また、複数の地域の方の参加が得られており、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員には毎回推進会議に参加していただき、報告とともにアドバイス等ご意見をいただいている。	市内の介護事業所が集まる連絡会に参加しており、市の担当部署との情報交換につなげている。地域包括支援センターとも、運営推進会議を通じた行事の協力が得られている。また、市の介護相談員との情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	山村の環境から地域を含めて生活エリアととらえ行動を束縛しないように心掛けている。	身体拘束を行わない方針のもと、リビングから外に出ることができるため、職員間での利用者の見守りに取り組んでいる。また、職員による対応等で気になった際には、注意喚起等の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し学習し、言葉使いを含め、利用者様を威圧する行為の無いように職員間でも意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様を理解するため、生活史を把握し、真に尊敬すべき先人であることを認め権利を守るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様の権利を守るための契約である旨を伝え、解約にかかわることは常に相談の上決めることを説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望が言いづらい面があるが常に会話から出たことを情報収集し改善に努めている。	親睦会の際には、多くの家族の参加が得られている。家族からの意見等は、管理者と所長で分担しながら対応する体制がつくられており、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月の利用者毎のホーム便りが作成されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは一方的になりがちであるが日頃よりなんでも話せる関係づくりに努めている。	ホームでは、毎月の会議の形式から、その都度、職員間でミーティングを行う方式に変更している。ホームには法人代表者も日常的に勤務しており、管理者やホーム長からの意見や職員からの要望等には、随時対応するように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事別に担当を決め権限を与えリーダーになるべく各自がを感じられるような場を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表、管理者、ケアマネを中心に研修し職員一人一人の能力を高めるように努めている。気づいたことをその都度指摘するよう努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会主催の研修会などは管理者、所長は積極的に参加し交流を深め質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの際から信頼関係を築き、本人のニーズを把握できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの作成に向けて、家族ともしっかりと向き合い、聞き取りを行ってサービスに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時本人や家族のニーズに対して、優先順位に従いサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方的な立場を越えて家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の施行に従って外出、外泊を自由にしてもらっている。また、時間にとらわれず常時訪問も受け入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親戚の方の訪問も常時受け入れて個別での時間もゆったりと取っていただいている。	利用者により、入居前からの趣味を継続している方や馴染みの美容院を継続している方もいる。また、家族との交流の機会もつくられており、食事や買い物を通じた外出の他にも、墓参りや法事等を通じた外出の機会もつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に支援はしていないが利用者同士が励ましの声掛けする関係を自然に作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅および医療機関、施設等への転居の際も関係職種と連携しながら随時訪問や面会を実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を通して本人の暮らし方を理解し、意向に近づけるよう努力している。	職員全員で利用者の把握が行われており、利用者の状況等に合わせたミーティングを行うことで、職員間の情報の共有や意向等の反映につなげている。また、合わせてカンファレンスにもつなげており、アセスメント等への反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の際には、本人から聞き取りを行うと同時に、家族や親戚、関係者の方からも聞き取りを行い、ケアプランに反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況の変化にも注意し、現在必要なサービスは何かを常に考えサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントの段階から本人や家族等の関係者間でしっかりと話し合い、サービス導入後も常に本人に則したものになるようモニタリングを継続している。	介護計画は3か月毎に見直されており、職員間でのミーティングを通じて、3か月でのモニタリングが行われている。職員が日常の記録を残す際には、介護計画の内容を確認するようにしており、日常的なチェックにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別カルテや日誌を記録し情報を共有しながらミーティングを随時開き、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内の個別カルテのみにとらわれず必要に応じフォーマル、インフォーマルサービスを取り込むよう意識しながらケアに従事している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(神社、仏閣、万屋、喫茶等)の有効に利用しお参りや買い物を通し、本人の張りのある生活をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の段階で、家族へ受診に際しての付き添いをお願いし、当施設の協力病院の紹介や以前からの本人の希望するかかりつけ医の受診が可能か相談しながら進めている。	利用者により、今までのかかりつけ医を継続している方もおり、家族により受診支援が行われている。また、看護職員が勤務しており、医療機関への情報提供を行ったり、日常的な健康チェックや医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職は不在だが、職員間で本人の状態変化に際して看護師資格を持つケアマネと相談しながら、必要時かかりつけ医と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の定期受診時には文書で連携を取っている。入院時は、訪問し今後の経過やリハビリ、治療方針など情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLが少しずつ低下してきたり医師の診断より今後重症化が予測された場合は、本人や家族と話し合い協力しながら段階的に支援を進めている。	過去には、看取り支援の経験めあるが、現状は、ホームでの看取り支援は行われておらず、利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いの取り組みが行われている。また、看取りに関する研修会の取り組みも行われている。	ホームでの看取り支援については、ホームの継続したテーマでもある。利用者、家族により、ホームでの生活を希望している方もおり、ホームでの継続した取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応には、職員間で情報やマニュアルの確認を行い、速やかに対応できるようにしている。また、応急手当講習を年1回以上受講する機会を作り備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも声掛けをし年2回の避難訓練を実施している。	年2回の避難訓練については、夜間を想定した訓練も次回に予定しており、職員間での確認が行われている。訓練の際には、消防署の協力も得られている関係でもある。また、備蓄品についてもホーム内での確保が行われている。	地域の災害訓練の際には、ホームからも参加しており、協力関係につなげている。ホームからの働きかけを継続しながら、地域の方との関係づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴を知ることで、理解し尊重した言葉かけや対応に心がけている。	利用者の尊厳に配慮した対応を行うように取り組んでおり、利用者のプライバシーへの配慮にも取り組んでいる。また、利用者の中には、対応の難しい方も生活していることもあり、言葉遣い等、職員間での確認も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全体の中で言いにくいことなどは個別に個室に訪問し思いや要望を話していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の目安としてのスケジュールは存在するが利用者個人の希望に沿った支援が提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪、日々の洋服選び等は本人の希望に添えるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、下膳、食器拭洗い、片付けなど利用者様に積極的に参加していただいている。	メニューを職員で考え、利用者も出来ることに参加した食事作りが行われている。日常のおやつ作りの取り組みが行われている他にも、季節に合わせた行事食の取り組みも行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の物を取り入れた献立をもとに利用者に適した量を盛り付けるよう配慮している。食事摂取量やその他気になる点は、カルテに記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日に2回の食後の歯磨き、夜間の義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	業務日報に利用者の排泄時間を記入し、個々の排泄パターンに応じた支援を行っている。	利用者全員の排泄記録を残しており、日常的な申し送りや情報交換等を通じて、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。また、日中と夜間で対応を変える等の取り組みや看護職員を通じた医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維の多い食事を取り入れたり、運動等により便秘予防に取り組んでいる。また、かかりつけ医からの処方薬を調整しながら服用し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者様の気分や体調に考慮し一人ひとり声掛けし行っている。	入浴については、利用者により週2～3回行われているが、希望に合わせた回数も可能である。身体状態に合わせた職員複数での入浴支援も行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望にそった安眠休息をいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を個別のケースに分別し服薬介助を行っている。もし、症状変化が見られた場合は、すぐに医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の掃き掃除食事の手伝い、食器洗い片付け、洗濯物のたたみなど家事に参加していただいたり、塗り絵や生け花、将棋など趣味の時間も個別でもうけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、故郷訪問をしたり、地域のカフェコーナーに訪れたりや季節ごとに外出行事を企画したりしている。	利用者が日常的に外出できるように取り組んでおり、毎週ホーム近くに来る移動販売の際には、利用者とお出掛けしている。また、季節に合わせた花見や紅葉に出かけている他にも、地域包括支援センターで行われている行事にも参加している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解の上、トラブルにつながらない程度の少額を管理し利用者様の買い物をする楽しみを持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば電話連絡をしたりはがきや手紙もお手伝いしながら書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の年月日は利用者様がわかるよう掲示している。壁飾りも手作りで季節感のあるものを取り入れるようにしている。	リビングは、民家を改装していることで、利用者の入居前からの環境にも近いこともあり、日常生活を落ち着いて過ごすことができる。庭に喫茶を楽しむことができるテラスも用意されてある。また、ホームでの利用者の様子を写真で掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は、個人でゆったりとくつろぐことができるよう整え、共用空間においては他者とのコミュニケーションの場として過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室で使用するものは、家庭から馴染みのものをご用意していただいている。	居室には、利用者が使い慣れた家具類の持ち込みが行われたり、好みの物や家族の写真を飾っている方もいる。その一方でシンプルな雰囲気のある居室の方もあり、利用者毎に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室出入口の名前の配置等工夫するようにしている。		